

クラス番号	913	担当教員名	原田 正樹
テーマ	住民主体による地域福祉の推進のあり方		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等： 知多半島はNPO活動が全国的にも盛んな地域です。日本地域福祉学会による「優秀実践賞」を授賞した「地域福祉サポートちた」という中間支援組織があります。ひとつひとつのNPO法人も、地域に根ざして、とても魅力的な活動をしています。 地域福祉とは、行政や専門職だけが頑張って推進するものではありません。地域で暮らしている住民の一人ひとりが主体的に関与していくことが重要です。しかしながら、どこでも住民が主体的に動けるわけではありません。どういう条件が整えば、住民が主体的に地域福祉を推進していくことができるのか。それが明確になってくれば、さまざまな支援のプログラムが考えられます。 将来、「地域福祉」の分野で働いてみたいと思っている人たちにとって、ここ知多半島のNPOで学ぶことは、大きな力になるはずです。地域福祉とは、子どもも、障害のある人も、要介護の人たちも、生活に困窮している人たちも、誰もが地域住民の一人として、その地域で生活が営むことができるような地域を創出していく過程（プロセス）です。 対象を、児童、障害、高齢といった縦割りの分野でとらえるのではなく、「誰もが」という視点から、共生社会（ノーマライゼーション）を考えていく視点が地域福祉には大切です。 授業計画： 春休みにNPO見学のバスツアーを行います（予定） 4月以降は、希望するNPOを選択して、夏の活動にむけて事前学習をしていきます。 自分たちで可能な地域貢献にむけた企画を考えていきます。 夏休みには6日間の活動を、実際にNPOなどで行います。 後期には報告会にむけてのリフレクションを行い、プレゼンの準備をしていきます。 この年間のプログラムにおける参加度（提出物、活動、発表など）について総合的な評価を行います。 こうした一連の学習プログラムは、「サービslラーニング」と呼ばれるアメリカで開発された教育メソッドです。日本福祉大学は日本で最初に福祉系大学でこのプログラムを取り入れてきました。将来、ソーシャルワーカーとして活躍していきたい人たちにとって、必要な基礎力を育むためには、最適な学習方法のひとつです。ぜひ挑戦してみてください。			
担当教員からのメッセージ			
地域福祉が大好きです。地域の美味しいもの、地域の美しい自然、地域の優しい人たち、そんな地域を大切にできる人たちに、地域福祉を学んでほしいと思っています。でも実際には、地域にはさまざまな課題があります。過疎化がすすみ、高齢者だけでは生活が成り立たなくなっているところ。障害のある人たちが差別され、排除されそうになっているところ。社会的な孤立がすすみ、寂しさが募るばかりのまちの姿もあります。 ゼミでは、そんな地域の光と影、さまざまな現実を受け止めながら、将来の地域福祉を考えていきたいと思っています。今、日本で一番おもしろい知多半島の地域福祉を、みんなで一緒に学びましょう。			